

富士で大量遭難

春の低気圧が日本列島をかけ抜け、山は暴風雨に包まれた。連休の3月19日から20日にかけて富士山は、最大瞬間風速50mの強い風とみぞれに見舞われた。

底なだれも起きた。雨をたっぷり含んだ雪は、3合目付近で幅50m、厚さ1m、長さ1kmにわたって斜面を襲いその一つは、2合目にあるスキー場の駐車場に置いてあった10数台の車を押し流した。

その悪天候について強行下山したパーティーや単独行の山男達は、ある者は疲労と寒さで次々に倒れ、ある者はなだれにのみこまれ行方不明になった。命からがら下山した1人から遭難が知らされ、21日、濃い霧の中を救援捜索活動が始められた。しかし、次々に入る悲しい無線連絡。そして2合目太郎坊の救援捜索本部に、スノーボードで運ばれてくる遺体。21日夕刻まで18人が遺体となって下山。行方不明者は6人と発表。ふもとの善竜寺に仮安置された我が子や夫の遺体に涙をぬぐう家族。

富士山でこれまでにない多くの犠牲者を出した今度の遭難。その全んどが地元の山岳会のメンバーで占められていた。そして彼等はいずれも、冬の富士山をよく知るベテランだった。中には、スイスのアイガー北壁の登頂に成功した人もいた。それでも遭難は起きた。自然のきびしさに挑戦した若者の命が自然のきびしさに奪われた。気象変化の激しい富士山、その悪天候について強行下山を判断したその背後に人間の思いあがりはなかったか。なぜなら、天候の回復を山小屋やテントの中でじっと待っていた登山者は難をのがれたのだから。

3月22日早朝、遭難などなかったように、富士山は雪に包まれた姿を見せた。号令のもとに今日も行方不明者の捜索隊は濃霧をついて雪の斜面を登っていった。その足取りは重い。

自衛隊移駐反対

—立川—

3月7日深夜11時46分突然自衛隊は立川基地に強行移駐した。

阿部立川市長は市民を前に訴える。

「3月7日の夜、防衛庁からの事前通告を受け取りましたのは夜半の11時6分でありました。防衛庁がこれからお約束にしたがって事前通告をいたしますと言っているこの瞬間、だましようのように自衛隊は立川基地に進んでいたのです。皆さん、立川市民の82%は反対してはおりませんか。この事実を一方向的に無視しようとした佐藤政府のやり方に対して腹の底から怒りをこめて糾弾しようではありませんか」

憤る市民は基地におしかけた。

「自衛隊は出て行け！ 自衛隊は出て行け！」

国会では、社会党の石橋議員が佐藤総理につめよった。

「立川の基地に深夜移駐するという態度、沖縄の今度の配備とは同じ精神から出てるんですよ。反対されようといふ何しようといふ俺たちが決めた通り実行するんだと、問答無用という態度じゃないですか。太平洋戦争の英雄であるマッカーサーはだんことしてトルーマンが処分した。これがシビリアンコントロールの本質ですよ」

立川市街の真中に位置する広大な基地。子供達は金網ごしにそこを見やりながら語る。

「立川基地から米軍がいったっていいので、うるさくないでひと安心というところだったというのに、自衛隊がくるんでしょ。別に戦争するわけでもないのに設備、軍備作っておくことにこしたことはないけど、住民に迷惑をかけるほどネ、そういうことをやることじたい反対だし、まちがっているんじゃないかな」